

平成27年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	日本共産党
事 業 名	「第77回全国都市問題会議 in 長野市」への参加
事 業 区 分	研究研修 調査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

テーマが「都市の魅力づくりと交流・定住 人口減少社会に立ち向かう 連携の地域活性化戦略」となっていました。また、開催場所が近くということで、日程調整の結果、会派所属議員全員が2日目に参加しました。

2 実施概要



○2日目のパネルディスカッション
(HPより)



会場外では、長野市の物産展が開かれ、全国からの参加者でにぎわっていました。

実施日時	主催	研修会場
平成27年 10月8日～9日 (参加したのは9日のみ) 研修会は9:30～11:50 現地視察は、12:40～バスで移動	全国市長会、後藤・安田記念東京都市研究所、日本都市センター及び長野市	長野市 ホクト文化ホール(長野県県民文化会館)

1・2 長野市の概要と特徴

< 研修会参加のため省略 >

3 研修事項について

【第2日目】9:30～11:50

パネルディスカッション

< コーディネーター >

辻 琢也 氏（一橋大学副学長、同大学院法学研究科教授）

< パネリスト >

小嶋 光信 氏（両備グループ代表兼 CEO）、久繁 哲之介 氏（地域再生プランナー）

橋本 純一 氏（信州大学全学教育機構基幹教育センター教授）、太田 昇 氏（岡山県 真庭市長）、菅 良二 氏（愛媛県 今治市長）

・ 時期開催市は、岡山市です。

2日目の午前中は、上記6人によるパネルディスカッションを行った。

久繁さんは官と民について問題提起しました。官と民の考え方ややり方が違うという切り口です。官の場合は、先に美しいスローガンを決め、関係しそうな団体や人を集めて、議論する方法。しかし、何をやるかがハッキリしないので各論に入るとまとまらないのが通例。その点、民の場合は、ある人がやることを決めて動き始め、この指止まれ式に、共感した人が集まり、資金も集まり事業が成功することが多い。うまくいくやり方は、民が物事を決め実践する、官は口を出さずに、資金だけ支援すること。また、手をあげたいいくつかのプロジェクトに少しずつ金を入れてもうまくいかないことが多い。

久繁さんの問題提起は刺激的でした。わかるけれど、実際にはできないことが多いのが官（行政）ではないでしょうか。それでも、何とかしなければという気持ちになりました。

閉会後の昼食は、地元産をふんだんに使った弁当。お品書きもあり、好評でした。



研修会の閉会后、昼食のあとは、恒例の現地視察（12:40～）

午後の現地視察では、戸隠高原、城下町松代、長野冬季オリンピック施設、善光寺表参道、東山魁夷館、篠ノ井中央公園など6コースに分かれて視察した。

久保田議員が参加した「城下町松代」コースのみ紹介する。

- ・松代象山地下壕は、終戦間近に大本営を東京から移すために掘られた地下壕がいまでも残されています。戦争末期のシンボルとしても貴重なものです。（写真・左下）



- 真田宝物館（父：昌幸と兄弟：信幸・信繁（幸村）が、犬伏で会談するきっかけとなった書状など貴重な宝物がたくさんありました。（写真・右上）

- 災害時自動販売機がデモ機として、無料開放されていました。（写真・右）



まとめ

- ・午前中のルディスカッションは、各分野からの発言があり、参考になりました。
- ・午後は、恒例とのことで現地視察が組まれていました。「城下町松代」コースに参加しましたが、城下町松代の魅力に触れるコースで大変勉強になりました。どこでも、長野市役所の職員のみなさんが、案内してくれるなど、心からのおもてなしでした。
- ・全国から 2200 人もの市長や議員が参加する研修会として開催市のPRや情報発信の場として大きな行事であることが分かりました。